



# Epic 55

Mid-field Studio Monitor

ユーザーガイド

# 目次

|                     |    |
|---------------------|----|
| はじめに.....           | 3  |
| Epic 55 のコンセプト..... | 3  |
| 各部の機能.....          | 4  |
| セットアップの推奨事項.....    | 5  |
| 開封.....             | 5  |
| 設置.....             | 5  |
| 設置に関するヒント.....      | 6  |
| フィールド幅.....         | 7  |
| ステレオイメージ.....       | 9  |
| 微調整.....            | 10 |
| オーバーロード.....        | 10 |
| 音量について.....         | 11 |
| 技術仕様.....           | 12 |

# はじめに

この度は、Epic 55 2ウェイ・プロフェッショナル・ミッドフィールド・モニター・スピーカーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本ガイドでは、Epic 55 の性能を最大限に引き出すために重要な、安全上のヒントや提案をご紹介します。ご熟読いただき、最適なモニター環境の構築と充実したミュージッククリエーションライフをお過ごし下さい。

## Epic 55 のコンセプト

reProducer Audio Epic 5 ニアフィールド・モニターに続く、新たな製品が向かうべきところは - より大きなモデルでした！

妥協のない製品を作るというモットーの中で、私たちは最も正確なサウンドパフォーマンスのために、全ての関連部品を社内で開発する努力を続けました。

3年近くの開発を経て、今日、私たちはこの Epic 55 をリリースします。これは、私たちのひとつの到達点です。

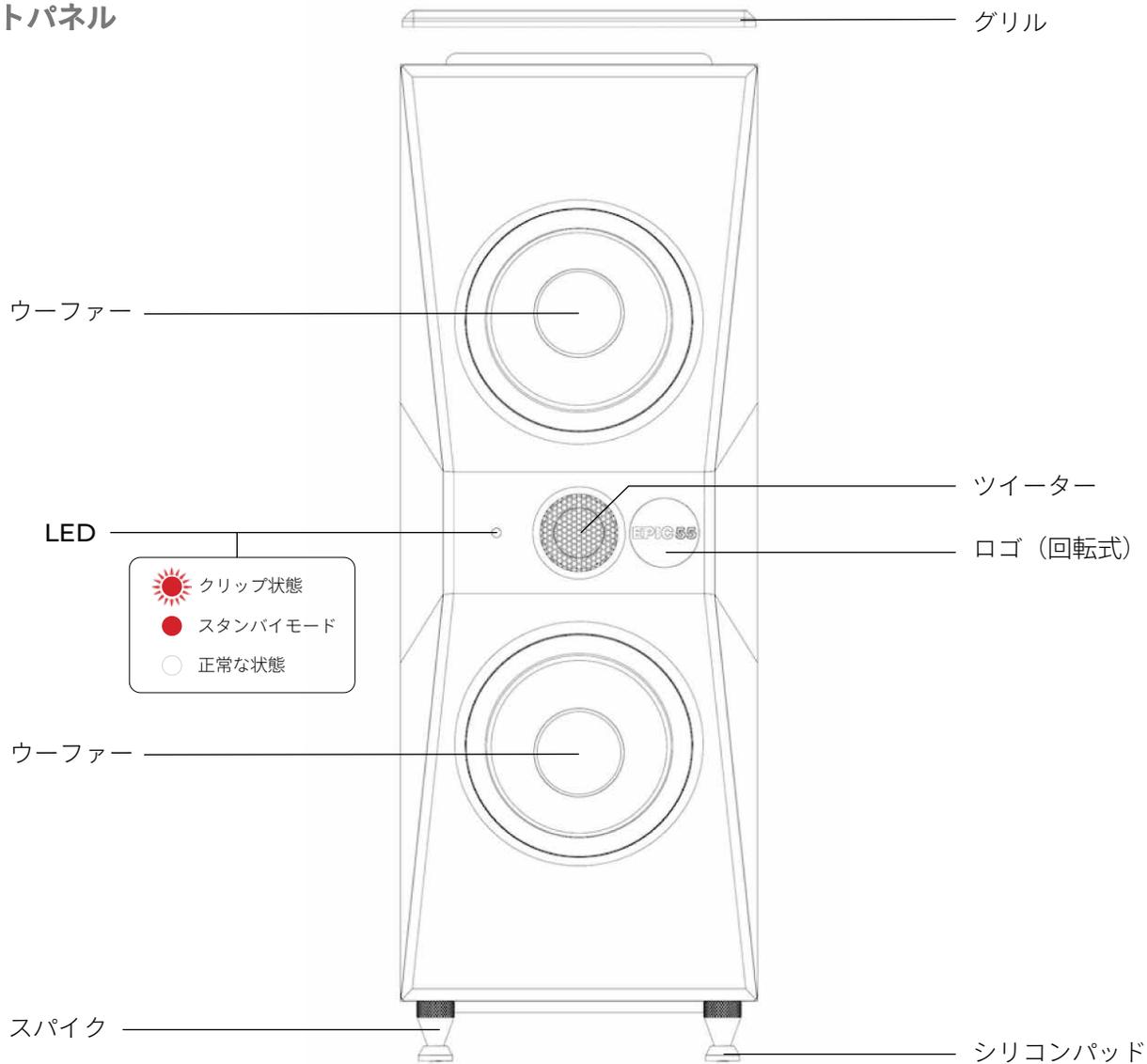
フラットな周波数特性、全ての周波数における速いトランジェントレスポンス、広大なダイナミックレンジ、低ノイズ、低歪みを備えた、高い信頼性と妥協のない音響特性、そして視覚的にも魅力溢れるスタジオモニターを設計することによって、オーディオエンジニアが業務スタジオやプロジェクトスタジオでの音決めを迅速に行うことができるようにするための機能を提供します。



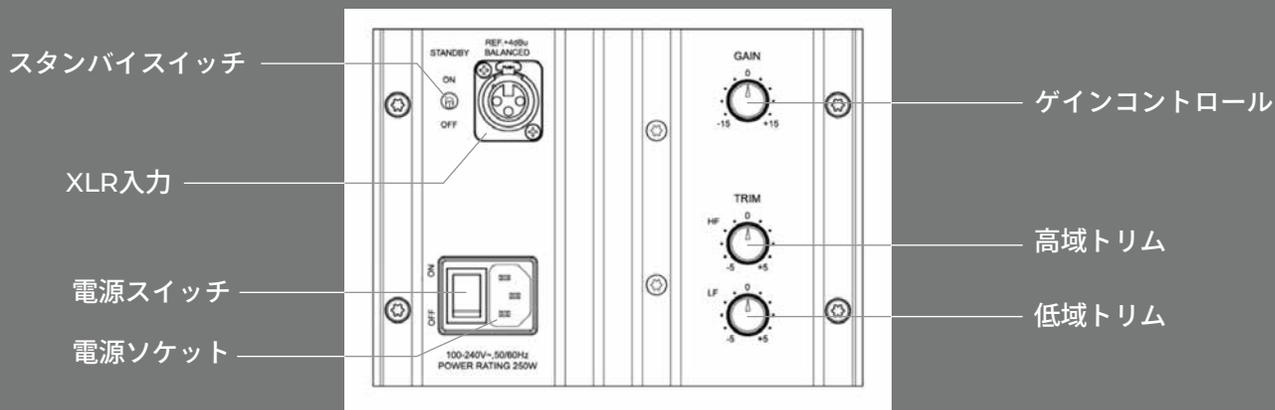
- ・ 本機でモニターを行う際は、常に適切な音量調整を心掛けて下さい。設定を誤ると、聴覚に永久的なダメージを与える音圧レベルを発生させます。
- ・ コンプレッション効果を避けるため、動的な制限は一切設けていません。歪みに気付いた場合は、すぐにレベルを下げて下さい。
- ・ スピーカーを熱、直射日光、湿気にさらさないで下さい。キャビネット表面の清掃には、軽く湿らせた布だけをお使い下さい。
- ・ キャビネットは絶対に開けないで下さい。内部にはユーザーが修理できる部品はなく、感電する危険があります。

# Epic 55 各部の機能

## フロントパネル



## リアパネル



# セットアップの推奨事項

ベストなサウンドを実現するためには、スピーカーと周囲の音響環境との相互作用だけでなく、スピーカーとリスナーとの位置関係も考慮する必要があります。ここでは、適切な例をいくつかご紹介いたします。



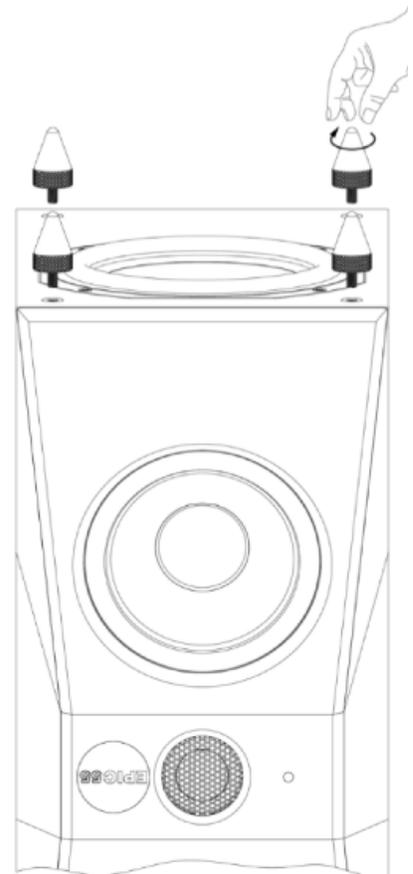
Epic 55 をファブリックバッグから取り外す際には、パッシブラジエーターに触れたり、損傷を与えたりしないようご注意ください。

## 開封

- Epic 55 をキャリングケースと保護布バッグから取り出します。この時、パッシブラジエーターに触れないようご注意ください。
- スピーカーを縦置きで使用する場合は、右図のように付属のスパイクをしっかりと差し込んで下さい。

## 設置

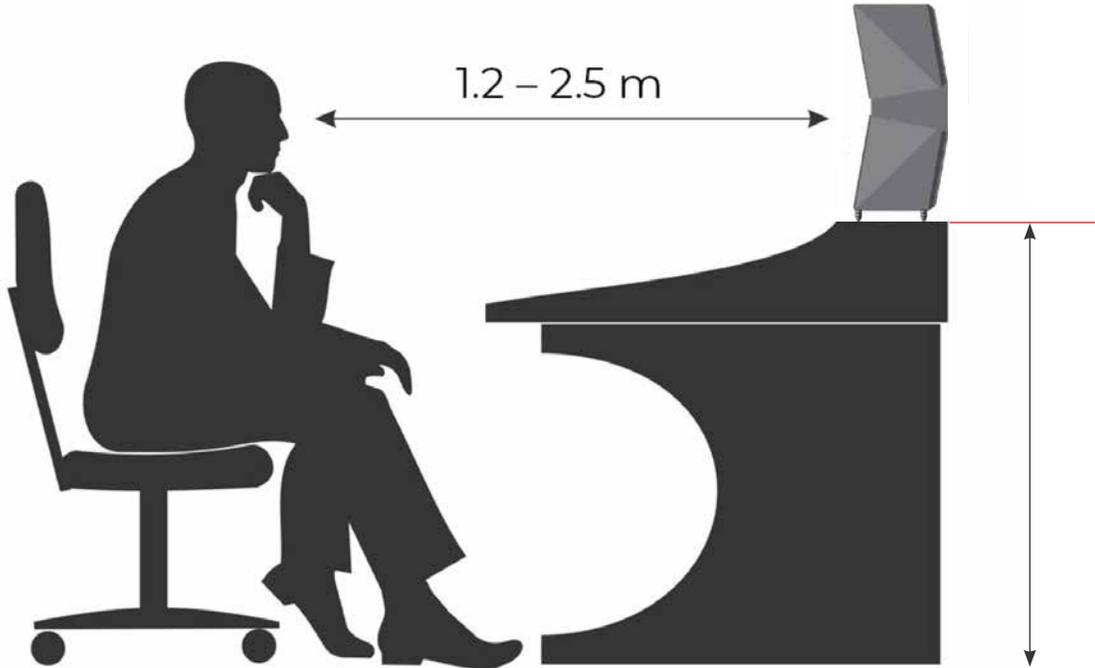
「ミッドフィールド」モニターである Epic 55 は、ローエンドのパワーを高めて設計されているため、「ニアフィールド」モニターである Epic 5 よりも広いスペース向けに設計されています。スタジオによっては、Epic 55 を縦置き、または水平にして設置する必要があります。



## 設置に関するヒント

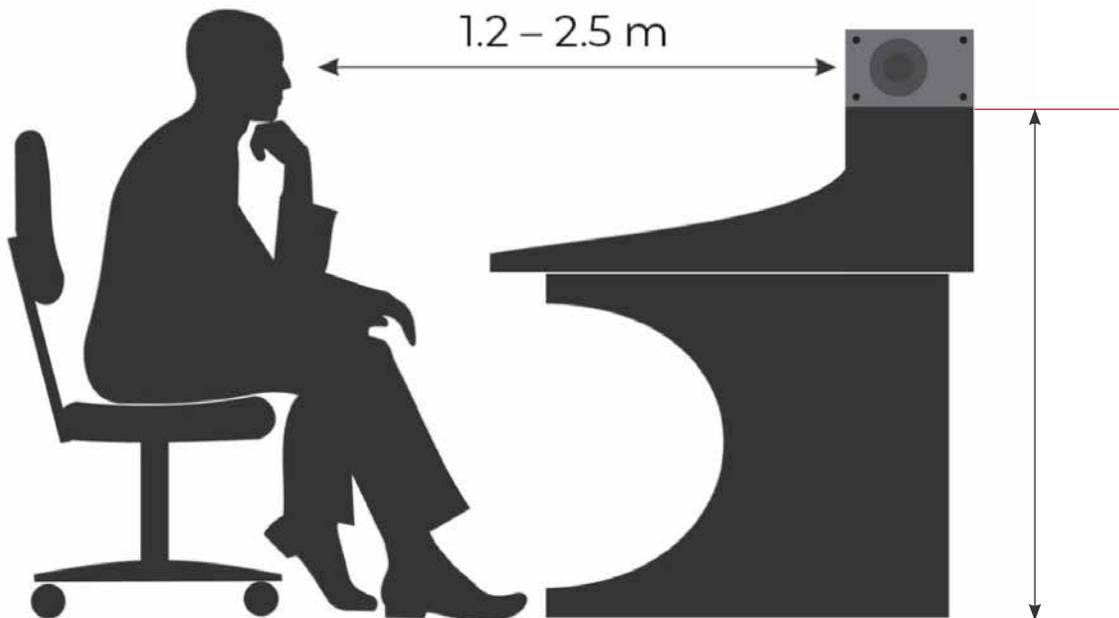
Epic 55 とリスニングポジションとの距離が 1.2 m から 2.5 m の範囲内で、耳の高さがツイーターと水平になるように設置していただくことを推奨します。

### 縦置きの場合：



### 横置きの場合：

横置きの場合、スピーカーキャビネット全体を高い位置に設置する必要があることにご注意下さい。



## フィールド幅

スピーカーを置く向きによって、サウンドの放射角が変化します。

- **縦置きの場合（推奨の置き方です）：**  
サウンドフィールドは水平方向（左右）に広く、垂直方向（上下）では狭くなります。



上から見たイメージ



- **横置きの場合:**

サウンドフィールドは垂直方向（上下）に広く、水平方向（左右）では狭くなります。最適なフィールド幅は縦置きの場合よりも大幅に小さくなり、天井や作業面からの反射が強いという潜在的な問題を含みます。

横から見たイメージ



上から見たイメージ



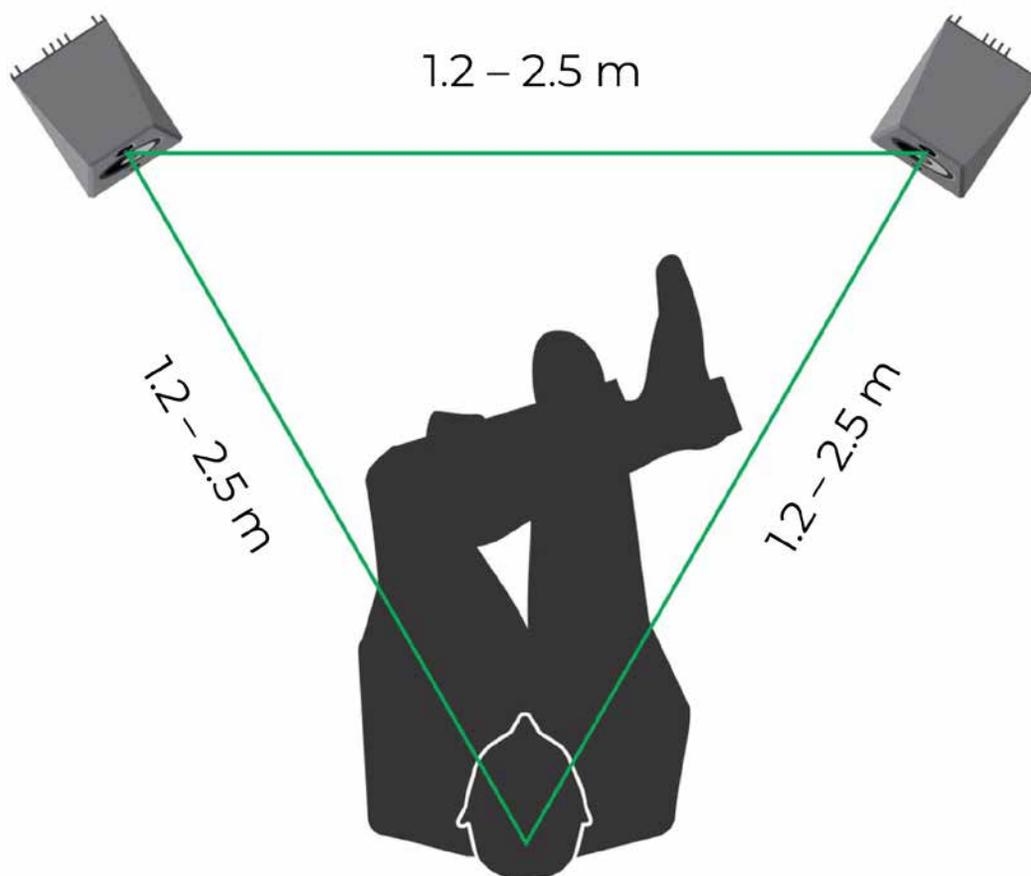
# ステレオイメージ

完璧なステレオイメージを実現するために、スピーカー（そしてリスナー）の位置がリスニングルームの中で対称となっていることを確認しましょう。左スピーカーから左壁まで、右スピーカーから右壁までの距離が（ほぼ）同じである必要があります。サウンドを濁らせる要因となり得る不要な反射音を防ぐため、スピーカーと壁との距離はなるべく離すことをお勧めします。

スピーカーと耳との間に障害物がないことを確認して下さい。巨大なモニター画面や植物等、サウンドに影響を与えそうなものは可能な限り避けましょう。

広く知られる「正三角形」の配置は実用的ですが、リスニングルームの空間構成や（主に壁、天井、床からの）反射量とその質によっては、リスニングポジションを三角形の少し内側に置くことが望ましい場合もあります。

最適なリスニングポジションを見つける簡単な方法は、モノラル信号を両方のスピーカーで再生し、中央にしっかりとしたファントムソースが確認できるまでゆっくり前後に移動して試みます。



# 微調整

通常、リスニング環境は音質に大きな影響を与えます。つまり、部屋の中でのスピーカーの位置や空間の特性によっては、補正が必要になる場合があります。

Epic 55 のリアパネルには、チューニングのための2つのノブが用意されています。各トリムは、1dB刻みで、±5dBの範囲でカットまたはブーストが行え、HF-Trim は 2.5 kHz より上、LF-Trim は 250 Hz より下で機能します。

フラットでしっかりした表面の明るい響きの部屋では、高域を落ち着かせる必要があるかもしれません。HF-Trimを操作して、高域を減衰させて様子を見ます。暗く、ブーミーな環境、あるいはリスニングポジションとの距離が推奨よりも長い場合には、高域成分を比例して増やしてみましょう。

LF-Trim も同様に機能します。通常、キャビネットと壁との間の距離で低域の調整が必要になります。Epic 55 の元々のチューニングは、ノブを真ん中の位置にして、フリー（4Pi）の無響環境で決定されたものです。壁に近いところでは、バウンダリーのような、低域ブーストがかかった2Piのアレンジに変わります。LF-Trim を操作して、この効果を軽減することができます。

もちろん、優れた位相特性を維持しながら、です！

# オーバーロード

フロントパネルの白いLEDが赤く点灯する時は、レベルがクリッピングポイントに近づいていることを示しています。過大入力機器の破損にも繋がるため、このような場合はソース側の出力音量を下げて下さい。かなりの量の低域成分を含むオーディオ素材を扱う場合、一時的な赤の点滅であればある程度は許容されます。それでも赤く点灯する場合は Epic 55 の高精度ゲインアッテネーターで調整を行きましょう。

# 音量について

人間の聴覚の精度は音圧レベルと密接な関係にあります。大き過ぎる場合はその精度が落ちるだけでなく、聴覚に害を及ぼすことにもご注意ください。

Epic 55 を使用するにあたっては、リスニングポイントで 83~86dB SPL が推奨の音圧レベルになります。これを超えないようにして下さい。



レベルを過度に上げないで下さい。聴力に永久的な損傷を与える可能性があります。

マスタリングエンジニアの Bob Katz は、ピンクノイズを用い、スピーカーごとに 83dB SPL (C-weighted、スローメーター設定)、ステレオでは 86dB SPL になるように調整することを推奨しています。

設定後、作業をしながらさらにレベルを上げる必要性を感じた場合は休憩を取るようにしましょう。

# 技術仕様

|              |   |
|--------------|---|
| 周波数特性（ツイーター） | +/- 3dB 40 — 30,000 Hz                                |
| 周波数特性（ウーファー） | +/-10dB 35 — 33,000 Hz                                |
| アンプ出力        | 120W RMS X 2, Tweeter 75W RMS                         |
| アンプ仕様        | ダイナミックレンジ 115 dB、ハイカレント、ハイダンピング<br>100 kHz以上の特性、超低ノイズ |
| 最大音圧         | 112 dB (C) SPL @ 1mの距離にて計測                            |
| 電源ユニット       | 100~240V、50/60Hz、ワールドワイド仕様                            |
| 消費電力（最大）     | 200 VA  |
| ウーファー        | 5.25インチ、パラスティックレゾナンス（不要共振）フリー仕様                       |
| ツイーター        | 1インチ、メタルドーム、リアチェンバー仕様                                 |
| クロスオーバー周波数   | 2.5 kHz, 24dB/octave                                  |
| 入力インピーダンス    | 12 kΩ   |
| 入力感度         | +4dBu   |
| ルーム補正EQ（高域）  | ±5dB/1dB単位、2.5kHz以上                                   |
| ルーム補正EQ（低域）  | ±5dB/1dB単位、250Hz以下                                    |
| スタンバイ        | オン/オフ（切り替え可能）   |
| 寸法（スパイク非装着時） | 515(H) x 190(W) x 320 (D) mm                          |
| 寸法（スパイク装着時）  | 535(H) x 190(W) x 320 (D) mm                          |
| 1本の重量（正味）    | 14.1 kg   |

rePro  
ducer

The image features the text 'rePro' on the top line and 'ducer' on the bottom line. A series of approximately seven parallel, curved lines connect the right side of 'rePro' to the left side of 'ducer', creating a bridge-like effect between the two words. The lines are black and have a slight wave-like pattern.